

# 平成31年度 事務事業評価シート (H30実績評価)

事務事業名		1079	公共交通対策事業		重点プロジェクト		2		
担当所属		150500	企画部 企画課						
予算科目	H31	1-020108	一般会計 - 総務費・総務管理費・公共交通対策費						
	H30	1-020107	一般会計 - 総務費・総務管理費・公共交通対策費						
施策	基本構想	02	2 あらゆる世代が快適に暮らせる安心都市づくり						
	政策	03	3 快適に暮らせる生活基盤づくり						
	施策	09	9 公共交通の充実						
	基本施策	02	(2) 公共交通の充実・利便向上						
事業類型	(ソフト系) 自主的事业		評価対象	■	経費区分	施策経費	支出区分	負担金	一部
副施策	1	-	2	-	実計対象	■		補助金・交付金	一部

**事務事業の概要** 記入者 渡邊 龍彦 内線 4312

事業期間 毎年 平成 19 年度 ~ 年度 対象 団体 協同組合日専連しもだて

法令 有 地域公共交通の活性化及び再生に関する法律 例規 有 筑西市乗合型デマンド交通システム「のり愛

関連計画等 筑西市地域公共交通網形成計画

**事業の目的**  
この事業によって対象をどのようにしたいのか  
公共施設、医療機関、商店街等への外出に不便をきたしている交通弱者の移動手段を確保し、交通不便地域の解消を図るとともに、市民交流の促進、商業の活性化及び環境に配慮したまちづくりを推進する。

**事業の内容**  
具体的な事務事業の内容、手法、手順  
全体事業概要 協同組合日専連しもだてが実施する筑西市乗合型デマンド交通システム「のり愛くん」運行事業に対し、本事業の公共性を認め、運行経費の一部を補助金として助成する。筑西市地域公共交通網形成計画に関する協議及び実施に係る連絡調整を行うために設置する筑西市地域公共交通会議の運営。  
30年度事業実績 平成30年度より、コミュニティバス運行事業を公共交通対策事業に統合し、一体的な利用促進を行っている。  
●筑西市デマンド交通システム「のり愛くん」予約システム更新により、より運行の効率化を図り、利用者数を大きく伸ばした。●筑西市広域連携バスについては、あらたに10月から茨城県西部メディカルセンター経由の系統を追加し、利用者の取り込みで成功した。●筑西市地域内運行バスについては、実証実験運行2年目となり、地域コミュニティ（幸町自治会）への直接的な働きかけなどを通して、利用者増に努めた。

## 事業費の内訳 (千円)

		総事業費	平成29年度 実績		平成30年度 実績		平成31年度 予算	
事業費	財源内訳	国庫支出金	0	0	0	0	0	0
		県支出金	0	0	0	3,272	0	0
		地方債	0	0	0	0	0	0
		その他	0	0	0	0	0	0
		差引：一般財源	0	55,328	85,037	108,066	0	0
事業費計(A)		0	55,328	88,309	108,066	0	0	
人件費	従事職員数(人) [正規：臨時嘱託]		0.80	0.00	0.75	0.00		
	人件費(B) [正規：臨時嘱託]		6,522	0	6,133	0		
フルコスト(C) = (A) + (B)			61,850	94,442				

## 指標の推移

活動指標 1	指標名	「のり愛くん」の利用促進のための広報等				単位	回
	目標値	3	目標年度		目指す方向	↑	
	考え方・式等	市広報誌Peopleへの掲載					
	年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	達成率(%)	平成31年度見込	
実績	3	2	1	33.3	1		
活動指標 2	指標名	筑西市バス年間利用者数				単位	人
	目標値	100,000	目標年度		目指す方向	↑	
	考え方・式等	筑西市内を運行するバスの利用者数					
	年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	達成率(%)	平成31年度見込	
実績	10,450	38,545	53,358	53.4	94,900		
成果指標 3	指標名	のり愛くん年間利用者数				単位	人
	目標値	48,000	目標年度	令和 03 年度	目指す方向	↑	
	考え方・式等	「のり愛くん」の年間利用者数					
	年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	達成率(%)	平成31年度見込	
実績	38,717	38,553	39,602	82.5	40,290		
目標に対する達成状況の評価	利用者数については全体的に順調に増加傾向にある。						

## 状況の変化等

社会情勢の変化	高齢者人口の増加や環境への意識の高まりから、公共交通の重要性が増してきている。新規利用を促すため、免許返納者へのお試し乗車券の発行などを開始した。			
市民等からの意見・要望	デマンドの運行時間の拡大や、バスルートの増設などの意見が寄せられている。			
市以外での類似事業	○ 無	● 有	→ □ 国 □ 県	■ 民間 ■ その他
	実施機関名	市町村、タクシー会社、バス会社、鉄		事業名 鉄道 タクシー等

## 結果評価

評価の観点	
評価内容	評価結果
目的の妥当性	
1. 事務事業の目的は、総合計画の施策目標に合致しているか。	合致している
2. 市が主体的に行うべき役割の事業か。	行うべき事業である
3. 市民ニーズ等を反映しているか。	反映している
4. 特定の個人や団体に受益が偏っていないか。	偏っていない
5. 市民との役割分担は適切か。	適切である
事業の有効性	
1. 類似事業との再編や統合はできないか。	できない
2. 成果を向上させる余地はないか。	ある (少しはある)
3. 廃止・休止した場合の影響はあるか。	影響がある (大)
事業の効率性	
1. 成果を落とさずに事業費を削減できる余地はないか。	ある (少しはある)
2. 成果を落とさずに人件費を削減できる余地はないか。	ない
3. 受益者の費用負担や受益機会に適正化の余地はないか。	ある (少しはある)
事業の現状・担当コメント (評価に対する課題等)	<p>少子高齢化が進行する中、高齢者等の交通弱者の足を確保するため、地域公共交通網の形成は大きな課題となっている。当市においては広い可住地面積をデマンドでカバーし、交通弱者の難民化を予防するとともに、地域の活性化の観点も含めながら鉄道やバス路線といった大量輸送手段の活性化を図っていく必要がある。公共交通機関全体の利用者数は順調に増えており、大きくなるニーズに的確に応えていく施策が求められている。</p>

## 課長評価

課長意見	<p>「のり愛くん」は、補助金交付額の減少や利用者数の増加など、改善が見られた。 「広域連携バス」は、高校生や西部メディカルセンター利用者の取り込みに成功している。 「地域内運行バス」は、利用者が微増傾向にあるが、まだ改善の余地がある。 しかしながら、公共交通全体での利用者は増加傾向にあり、高齢化が進展する社会におけるのり愛ネットとして重要性が増してきている。</p> <p>【進捗状況：順調である】</p>
来年度の事業の方向性	拡充
改善策	<p>「のり愛くん」については、運行時間、利用料金の見直し等について事業者との間で意見交換を行っていく。 コミュニティバスについては、利用者の取り込みについて周辺住民への働きかけを強化していくが、「のり愛くん」との機能分担も含め、路線網についての検討を行う。</p>
	改善の期間